



# ひたちなか市の教育

---

令和3年3月25日(木)

ひたちなか市教育委員会教育長

野沢 恵子

# 変化する社会で日本の学校教育が直面している課題

- 教育の質への指摘、社会的要求が高まる
- 民間サービスの拡大とともに、**経済格差や教育機会の差**を背景に持った学力差（英語活動・ICTを使った学習）
- 経済至上主義的価値観の拡大による学校のサービス機関化
- 指導内容の変化（正解暗記の比重の増加）
- 学習指導要領と実際の指導の祖語
  - ・「みんなで同じことを、同じように」を過度に要求
  - ・社会の多様化と、学校の画一的・同調主義的による負の循環
- 家庭の変化
- 学校の役割の拡大と教職員の疲弊
- 子供たちの**多様化**（特別支援・外国籍・貧困・生徒指導）

# 次代を切り開く子供たちに求められる 資質・能力

読解力

対話や協働を通じて  
新しい解や納得解  
を生み出す力

自分の頭で考え  
表現する力

# 時代が変わっても変わらず重要な事

豊かな  
情操

困難を乗り越え  
物事を成し遂げる力

自己肯定感

体力の向上

人間関係  
を築く力

他者への  
思いやり

自己有用感

規範意識

自他の  
生命の尊重

公共の精神

健康の  
確保を図る

# 国際的な動向をみると

## ○国際連合 → 持続可能な発達目標SDGsの達成

地域や地球規模の諸課題について、子供一人一人が**自らの課題**として考え、**持続可能な社会づくりにつなげていく力を育む**

## ○経済協力開発機構(OECD) → Well-beingの実現

自ら**主体的に目標**を設定し、**振り返りながら、責任ある行動**がとれる力を身に付けることが重要

(well-being = 児童生徒が幸福で充実した人生を送るために必要な

「functioning : 心理的・認知的・社会的・身体的な動き」と

「capabilities : 潜在能力」

# 予測困難な時代と新学習指導要領

---

「目の前の事象から解決すべき**課題を見出し**」

➡ 「**主体的に考え**」

➡ 「**多様な立場の者が協働的に議論し**」

➡ 「**納得解を生み出す**」



まさに「**新学習指導要領で育成を目指す資質・能力**」が一層強く求められている。

# 予測困難な時代と ICT

---

学校教育を支える**基盤的なツール**として、  
**ICTは必要不可欠なものであることを前提とした、**  
**学校教育の在り方**を検討していく必要がある。

(コロナ禍での学びを保障する手段としての「遠隔」・「オンライン教育」)

# 令和の日本型教育の姿

---

全ての子供たちの可能性を引き出す

「個別最適な学び」と

「協働的な学びの実現」



# 情報の科学的解明と教育等への応用に関する 調査研究協力者会議から（文科省）



きわめて困難な状況下において、この**困難を克服**し、やがて**大きな成長**を遂げる子供や若者がいる。

ストレス場面から  
心理的に回復する  
能力を持っている

# レジリエンス

# ひたちなか市の教育とこれから

○自立と協働の基に、計画的にまちづくりを進めていく

➡「多様性を認め、尊重するまちづくり」

Project1 : 子育て世代に選ばれる

Project2 : F1層が住みやすい

Project3 : UIターン先として選ばれる

Project4 : シビックプライドを高める



○教育の充実  
○子供の居場所

○市への誇り、  
愛着、共感

○幼児期から中学校までの学びの連続

保幼小連携・小中学校の継続的な学び  
小学校の教科担任制

○次世代の社会へ

英語活動・英語教育の推進・ICT活用

○持続可能な社会の創り手として

SDGsの推進・学生支援

○「個別最適な学び」と「協働的な学び」

ひたちなか未来塾・ICT活用・特別支援教育・新学習指導要領の着実な実施

○魅力ある学校づくり (いじめ・不登校)

児童生徒が主役の「笑顔プロジェクト」  
「魅力ある学校づくりプロジェクト」

○放課後こどもの居場所づくり

学童クラブ・預かり保育

○地域総がかりでの教育

コミュニティ・スクール、大学等との連携  
図書館、伝統文化の継承、文化財

# 教師も児童生徒も笑顔で未来へ...

夢・感動・笑顔がひろがる 教育のまち ひたちなか

夢

人生を切り開く原動力



笑顔

前向きに生きる



感動

思いやりや感性を磨く

